

**Denka**

Possibility  
of  
chemistry

2023年度 第1四半期  
決算説明会資料  
(2024年3月期)

証券コード：4061

デンカ株式会社

2023年8月7日

## 品質・安全に関する重大な事案が発生

## 品質

(2023年5月29日) 東洋スチレン(持分法適用関連会社)および当社の樹脂製品における第三者認証等の不適切行為

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1137/20230529\\_denka\\_styrene\\_ul.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1137/20230529_denka_styrene_ul.pdf)

進捗状況および今後の進め方

- ・中立な社外専門家から構成される外部調査委員会を設置し調査中
- ・本不適切行為に関する徹底的な調査、原因究明および再発防止策の策定を実施し報告予定

## 安全

(2023年6月14日) 青海工場における死亡事故

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1140/20230614\\_denka\\_omi.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1140/20230614_denka_omi.pdf)

(2023年7月11日) 青海工場 配管破裂事故に関する事故調査委員会の設置

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1145/20230711\\_denka\\_investigation\\_committee.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1145/20230711_denka_investigation_committee.pdf)

進捗状況および今後の進め方

- ・社外有識者・専門家を含む事故調査委員会を設置、第1回事故調査委員会にて委員長を決定
- ・本委員会による事故調査を実施中、報告書がまとまり次第報告予定

続けて発生した2件の事案は、製造会社として最も重要な「安全及び品質の確保」という経営の根幹を揺るがすものであり、極めて深刻な事態と受け止め反省。

原因究明および対策の策定、その着実な実行を喫緊の経営課題として、再びこの様な事態を引き起こすことがないように、社長がトップとして責任をもって対処。

全ステークホルダーからの信頼回復に向けて、デンカグループ一丸となって今後一層のコンプライアンスと安全の強化に努める。

(はじめに) コンプライアンスと安全強化に向けて 01

## 1 2023年度 (2024年3月期) 第1四半期 決算概要

① 連結サマリー	(前年比)	04
② 営業利益 増減要因	( " )	05
③ セグメント別内訳	( " )	06
④ セグメント別増減要因	( " )	07-10

## 2 2023年度 (2024年3月期) 上期業績予想

① 連結サマリー	(期初予想比・前年比)	12
② 市場見通し		13
③ 営業利益 増減要因	(期初予想比)	14
④ セグメント別内訳	( " )	15
⑤ セグメント別増減要因	( " )	16-19
⑥ セグメント別投資・償却費・研究費		20
⑦ 株主還元・ROE		21

## 3 「化学の力で世界をよりよくするスペシャリストになる」ために 22-29

(参考) 上期：セグメント別内訳 (前年比)	30
(参考) 通期：セグメント別内訳 (前年比)	31
(参考) 四半期推移 (セグメント別)	32

# 2023年度第1四半期 決算概要 (2024年3月期)

## ■ 前年比減益

単位：億円	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	(前年比)
売上高	944	878	△ 65
営業利益	49	28	△ 21
営業利益率	5.2%	3.2%	△ 2.0%
経常利益	51	24	△ 28
純利益	43	23※	△ 20
為替レート (円/\$)	126.5	135.8	
国産ナフサ (円/Kリットル)	86,500	65,800	

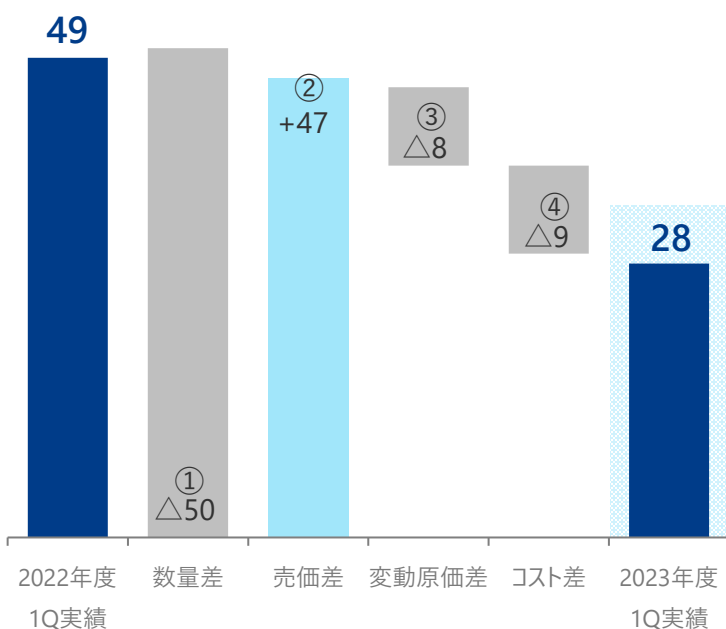
※ 政策保有株式売却益+10億円

## ■ 原燃料価格下落や値上げなどのプラス影響があるも、需要減少による数量差のマイナスが大きく、減益

営業利益 **28億円** 前年比  $\triangle 21$ 億円

## 営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



## ①数量差：

(マイナス)

クロロプレンゴム：産業、接着剤、自動車などの各用途で需要が減少

半導体関連製品・機能樹脂：民生（スマホ・TV・PC・家電）向けは中国市場での景気減速  
(プラス)

インフルエンザの流行によるコロナ・インフル同時検査キットの需要増

## ②売価差：(為替影響 + 34含む)

(プラス)

クロロプレンゴム：昨年度段階的に実施した値上げの効果

(マイナス)

スチレン系製品：原燃料価格下落に伴う価格改定

③変動原価差：(為替影響 $\triangle 22$ 含む)

原燃料価格が下落した一方、為替影響によりマイナス

## ④コスト差

米国DPEでの修繕費・労務費など増加

※ DPE (Denka Performance Elastomer LLC：米国クロロプレンゴム製造子会社)

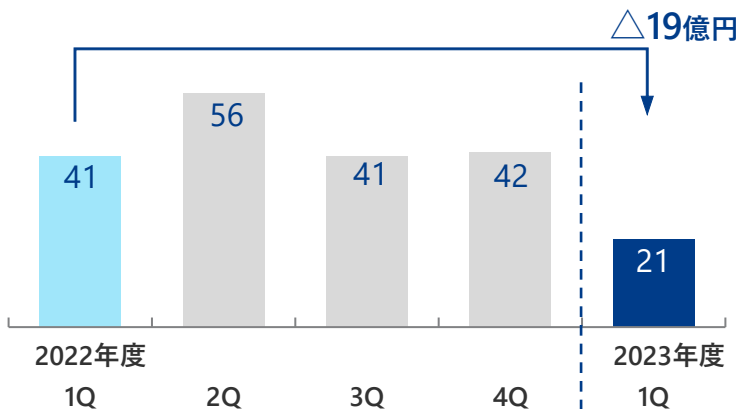
## ■ 電子・先端プロダクツ、エラストマー・インフラソリューションが前年比減益

売上高	単位：億円	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	増減		数量差		売価差	
電子・先端プロダクツ		219	192	△	27	△	45	+	18
ライフソリューション		64	72	+	8	+	10	△	2
エラストマー・インフラソリューション		304	280	△	24	△	66	+	42
ポリマーソリューション		316	298	△	19	△	8	△	11
その他 / 消去差		41	37	△	3	△	3		-
合計		944	878	△	65	△	112	+	47

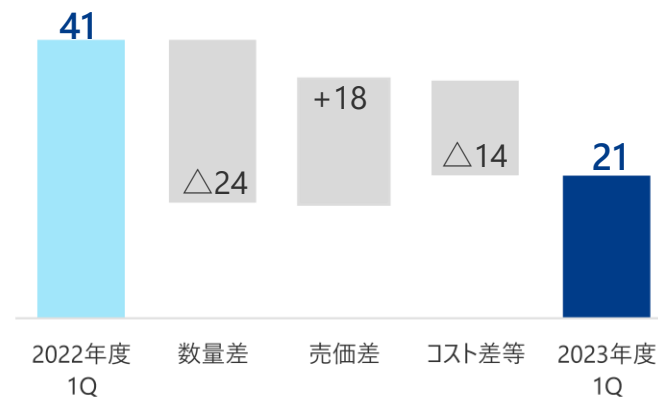
営業利益	単位：億円	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	増減		数量差		売価差		コスト差等	
電子・先端プロダクツ		41	21	△	19	△	24	+	18	△	14
ライフソリューション		5	9	+	4	+	7	△	2	△	1
エラストマー・インフラソリューション		△2	△7	△	5	△	27	+	42	△	20
ポリマーソリューション		△1	△0	+	1	△	5	△	11	+	17
その他 / 消去差		6	5	△	1	△	1		-	△	0
合計		49	28	△	21	△	50	+	47	△	18

■ 車載向けは需要回復に向かうも、  
昨年度3Qに急落した民生（スマホ・PC・家電）向け需要が、今年度1Qに更に悪化し減益

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)



単位：億円

製品別販売動向・コスト

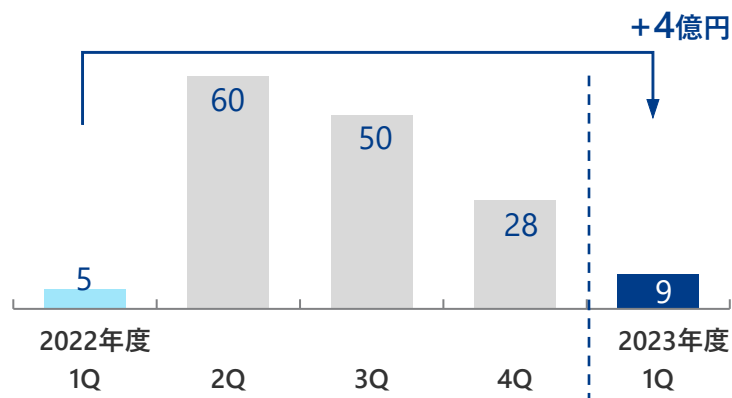
※コスト差：増産体制構築や販売体制強化による費用増加

- 球状アルミナ
  - xEV向けは、半導体不足による自動車減産影響を受けた昨年度1Qから、本回復まではいかないものの、出荷が前年を上回る一方、民生向けは、昨年度3Qに急落した需要が、今年度1Qに更に悪化し、全体では出荷が前年を大きく下回る
- 球状シリカ
  - 昨年度3Qに急落した民生向け需要が、今年度1Qに更に悪化し、出荷が前年を下回る
- 高機能フィルム
  - 昨年度後半に比べ出荷増も、前年比では出荷が下回る
- アセチレンブラック
  - xEV向けは、需要が堅調に推移し、出荷が前年を上回る一方、民生向けLiBの需要が悪化したことに加え、これまで堅調に需要が拡大してきた高圧ケーブル向けは、工事遅れにより一時的に需要が減少し、全体では出荷が前年を下回る
- セラミックス基板 (窒化珪素、窒化アルミ)
  - 電鉄向けは前年並みも、xEV向けは、半導体不足による自動車減産影響を受けた昨年度1Qから、本回復まではいかないものの、出荷が前年を上回る



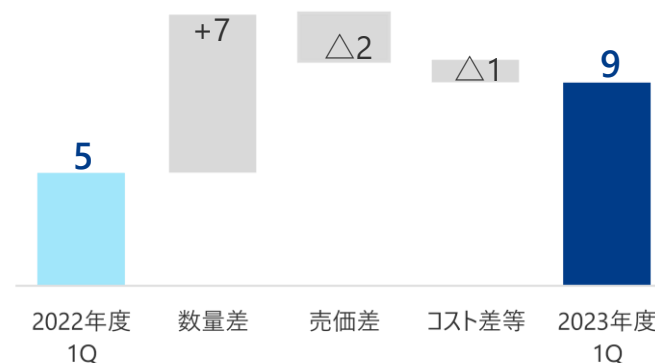
## ■ インフルエンザの流行によるコロナ・インフル同時検査キット（コンボキット）の需要拡大により、増益

### 営業利益 四半期推移



### 営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



### 製品別販売動向・コスト

- インフルエンザワクチン
  - 9月出荷開始に向けて順調に製造中
- 新型コロナウイルス抗原迅速診断キット
  - 新型コロナの感染者減少により新型コロナ検査キットの出荷が前年を下回るも、インフルエンザの流行により、コロナ・インフル同時検査キット（コンボキット）の出荷が前年を上回り、増収増益
- 臨床試薬（炎症マーカー等）
  - 概ね前年並みの出荷

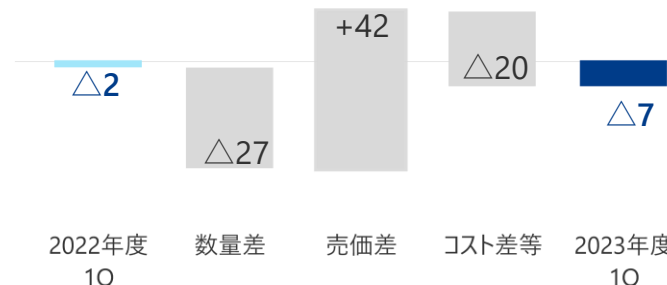
■ クロロプレングムは需要減少を値上げ効果が補うも、修繕費・労務費などの増加により、減益

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



※コスト差：米国DPEでの修繕費・労務費などが増加

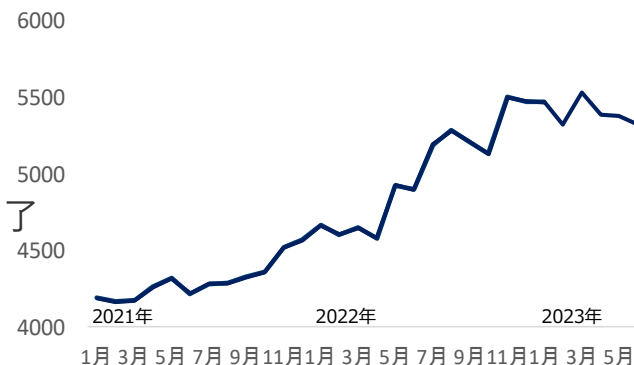
製品別販売動向・コスト

- クロロプレングム
- 昨年度3Q以降、産業、接着剤、自動車などの各用途での需要減により、出荷が前年を下回る
  - 昨年度に実施した段階的な値上げが寄与

- 特殊混和材
- 概ね前年並み

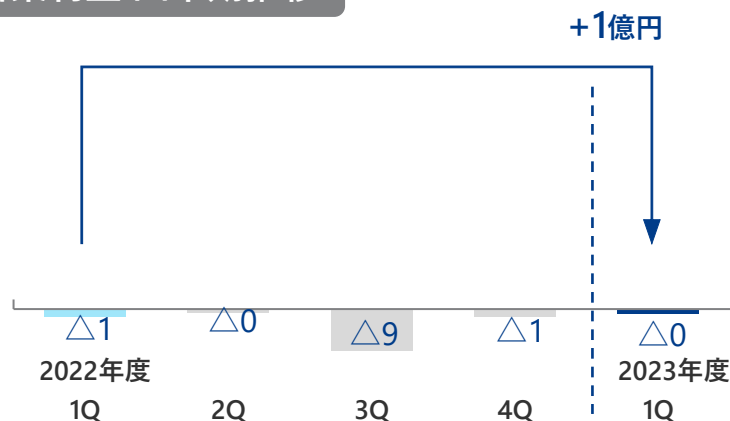
- セメント
- 2,300円/tの値上げは完了(昨年9月末時点)  
3,000円/tの追加値上げは進捗が遅れるも、7月末では概ね完了
  - 石炭価格が下落  
(2022年度1Q：\$ 373/t ⇒ 2023年度1Q：\$ 161/t)

【通関統計】クロロプレングム（ドライ+ラテックス）輸出単価 (US\$/t)



## ■ スプレッド維持も景気悪化により需要が減少し、引き続き低迷

### 営業利益 四半期推移



### 営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



※コスト差：原燃料価格下落

### 製品別販売動向・コスト

- MS樹脂
  - 昨年度期初から低調だったTVやPCのモニター向け導光板用途は、3Qに底を打ち、回復基調が今年度1Qにも継続し、概ね前年並みの出荷
- AS・ABS・透明樹脂など
  - 昨年度3Qに悪化した民生や化粧品容器、雑貨などの需要が、世界経済の全般的な低迷により、今年度1Qに更に悪化し、出荷が前年を下回る
- 食包シート・容器
  - 概ね前年並みの出荷
- Toyokalon
  - アフリカ・米国市場ともにインフレによる購買力低下が昨年度1Qから続き、概ね前年並みの出荷

2023年度(2024年3月期)  
業績予想

■ クロロプレンゴムや民生向け製品の需要が想定を下回り、上期予想を下方修正  
 下期の経済環境が不透明であることから、現時点では通期予想は据え置く

単位：億円	上期 期初予想	上期 今回予想	期初 予想比	2022年度 上期実績	前年比	2023年度 通期予想 (5月11日発表)
売上高	2,050	<b>1,900</b>	△ 150	2,029	△ 129	4,300
営業利益	125	<b>90</b>	△ 35	183	△ 93	330
営業利益率	6.1%	<b>4.7%</b>	△ 1.4%	9.0%	△ 4.3%	7.7%
経常利益	110	<b>70</b>	△ 40	170	△ 100	290
純利益	85	<b>50</b>	△ 35	143	△ 93	220
為替レート (円/\$)	130.0	<b>138.7</b>		131.6		130.0
国産ナフサ (円/Kリットル)	64,200	<b>62,600</b>		82,850		64,200

## ■ 上期の市場動向を期初予想から変更、 民生、クロロレン、食品容器の需要が期初の想定を下回る見通し

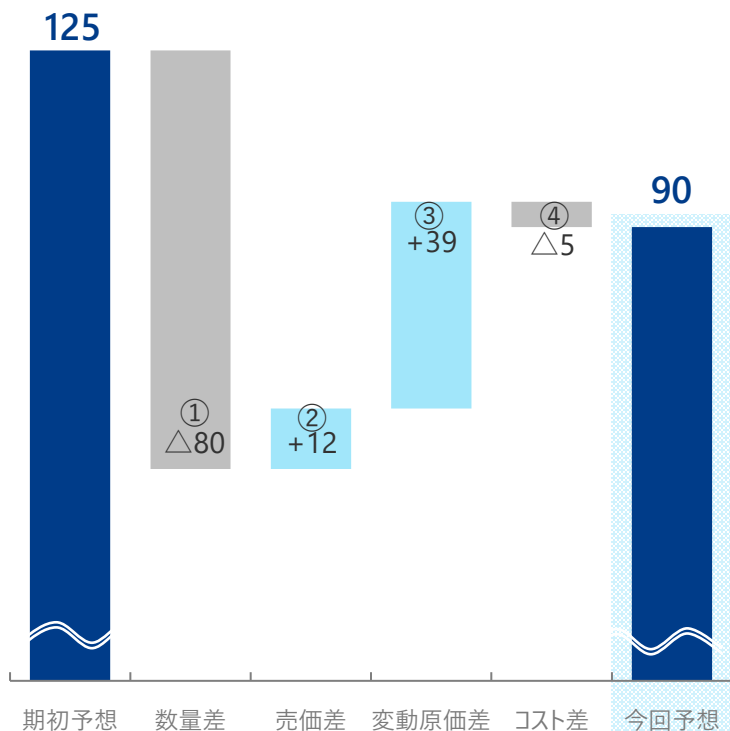
(市場動向)	期初予想	今回予想
半導体	車載向け 2023年末に向けて徐々に回復 民生向け 2Q以降の緩やかな需要回復	車載向け 見通しは変更なし 民生向け 需要回復が大きく遅れている
xEV	インフレ要因等のマイナス影響を受けるも、 市場拡大が加速 車載向け半導体は2023年末に向けて徐々に回復	変更なし
新型コロナウイルス	・2回程度/年の流行を予測 ・病院検査需要は継続も、自治体検査縮小 ・4月1日時点での保険点数の見直しはなし	変更なし
クロロレンゴム	上期以降、需要が緩やかに回復 下期には22年度上期比90%水準まで回復	需要低迷が長期化しており、回復の兆しが見えない
食品容器	外食と比べ割安感のある中食市場の需要増加	食品価格が更に高騰し、中食市場の需要が減少

## ■ 期初予想で2Q以降回復を想定していた製品の回復が見通せず、減益の見通し

営業利益 **90**億円 期初予想比  $\triangle 35$ 億円

## 営業利益 差異分析(期初予想比)

単位：億円



## ①数量差 :

(マイナス)

クロロプレンゴム：産業、接着剤、自動車の各用途で需要が減少

半導体関連製品・機能樹脂：民生（スマホ・TV・PC・家電）向けは中国市場での景気減速

## ②売価差 : (為替影響+45含む)

(マイナス)

スチレン系製品：原燃料価格下落に伴う価格改定

③変動原価差：(為替影響 $\triangle 30$ 含む)

原燃料価格下落、他

## ④コスト差

米国DPEでの修繕費・労務費など増加

※ DPE (Denka Performance Elastomer LLC：米国クロロプレンゴム製造子会社)

■ ライフイノベーションの増益を見込むも、  
電子・先端プロダクツ、エラストマー・インフラソリューション、ポリマーソリューションが減益の見通し

売上高	単位：億円	2023年度上期	2023年度上期	増減	数量差	売価差
		期初予想	今回予想			
電子・先端プロダクツ		450	400	△ 50	△ 53	+ 3
ライフイノベーション		200	200	± 0	△ 3	+ 3
エラストマー・インフラソリューション		650	575	△ 75	△ 84	+ 9
ポリマーソリューション		675	650	△ 25	△ 22	△ 3
その他 / 消去差		75	75	± 0	± 0	-
合計		2,050	1,900	△ 150	△ 162	+ 12

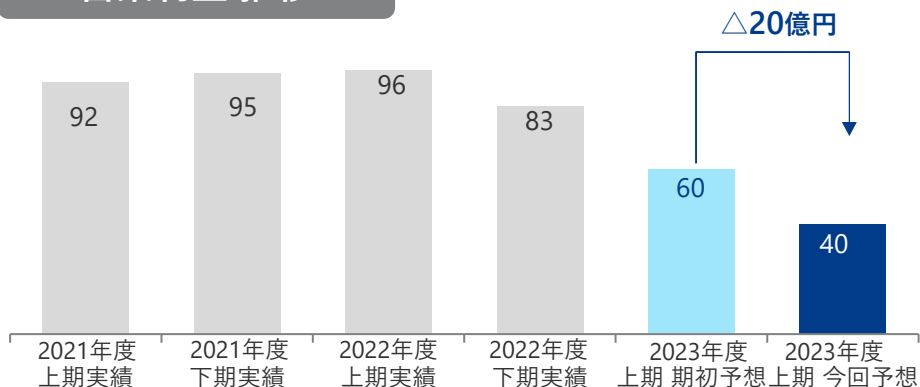
営業利益	単位：億円	2023年度上期	2023年度上期	増減	数量差	売価差	コスト差等
		期初予想	今回予想				
電子・先端プロダクツ		60	40	△ 20	△ 26	+ 3	+ 3
ライフイノベーション		40	50	+ 10	+ 3	+ 3	+ 4
エラストマー・インフラソリューション		5	△15	△ 20	△ 43	+ 9	+ 14
ポリマーソリューション		10	5	△ 5	△ 16	△ 3	+ 14
その他 / 消去差		10	10	± 0	+ 2	-	△ 2
合計		125	90	△ 35	△ 80	+ 12	+ 33



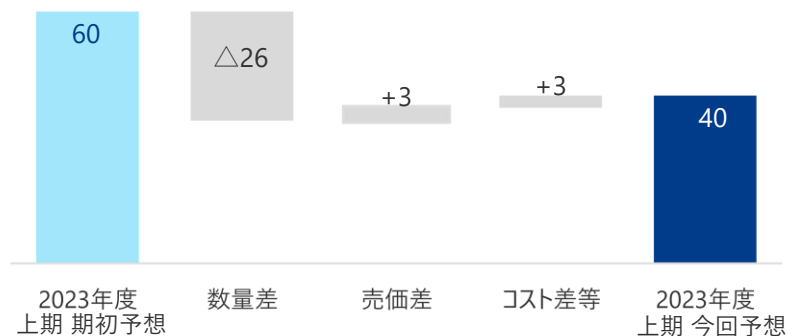
## ■ 期初予想で想定していた民生（スマホ・PC・家電）向け需要の回復が見込めず、予想を下回る見通し

単位：億円

### 営業利益 推移



### 営業利益 差異分析(期初予想比)



### 市場見通しと販売動向

(市場)	期初予想	今回予想
半導体	車載向けは2023年末に向けて徐々に回復 民生向けは2Q以降の緩やかな需要回復	車載向けの見通しは変更なし 民生向けは需要回復が大きく遅れている
xEV	インフレ要因等のマイナス影響を受けるも、市場拡大が加速	(変更なし)
再生可能エネルギー (高圧ケーブル)	欧州大型プロジェクトの一部遅れ	(変更なし)

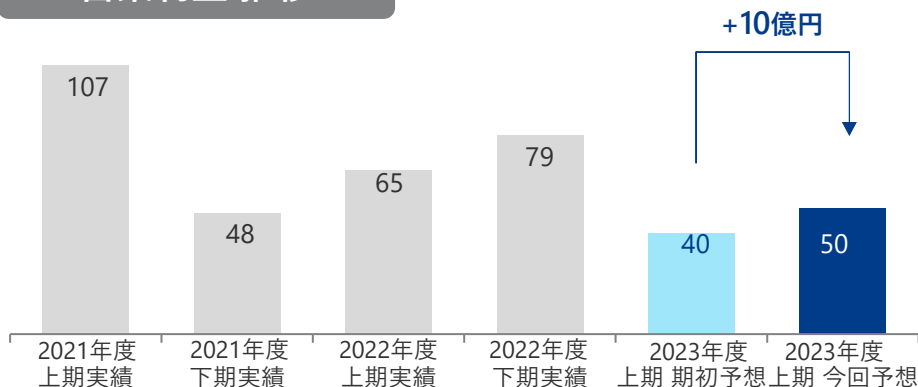
### 販売動向

- 球状シリカ
  - 高機能フィルム
  - 球状アルミナ
- ：民生需要が想定を下回り、下振れの見通し
- セラミックス基板：期初予想並み  
(窒化珪素、窒化アルミ)
  - アセチレンブラック：民生向けLiB需要減少により、下振れの見通し

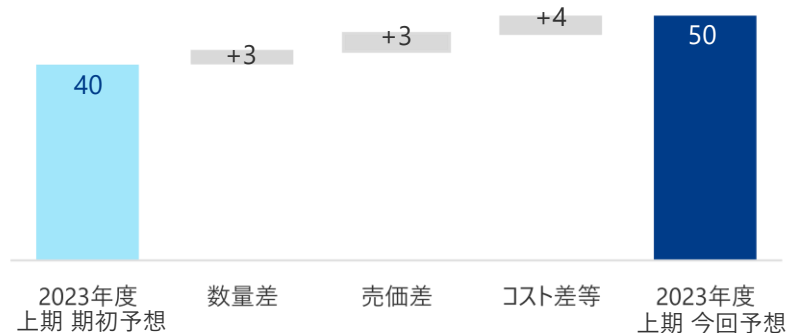
## ■ インフルエンザの流行によるコロナ・インフルの同時検査キット（コンボキット）の需要増や、5類引下げ後の検査キットの価格維持により、予想を上回る見通し

単位：億円

### 営業利益 推移



### 営業利益 差異分析(期初予想比)



### 市場見通しと販売動向

(市場) 期初予想 今回予想

**インフルエンザ**

- ・接種数は流行動向や、コロナワクチンの接種回数見直しにより、例年通りに
- ・昨シーズンからの流行が収束せず足元も継続
- ・接種数の見直しは変更なし

**新型コロナウイルス**

- ・2回程度/年の流行を予測
- ・病院検査需要は継続も、自治体検査縮小
- ・4月1日時点での保険点数の見直しはなし

(変更なし)

**臨床試薬 (炎症マーカー等)**

中国市場の需要回復により、コロナ前の2019年並に

(変更なし)

### 販売動向

**インフルエンザ ワクチン** : 上期は想定通り9月より出荷予定 (期初予想並み)

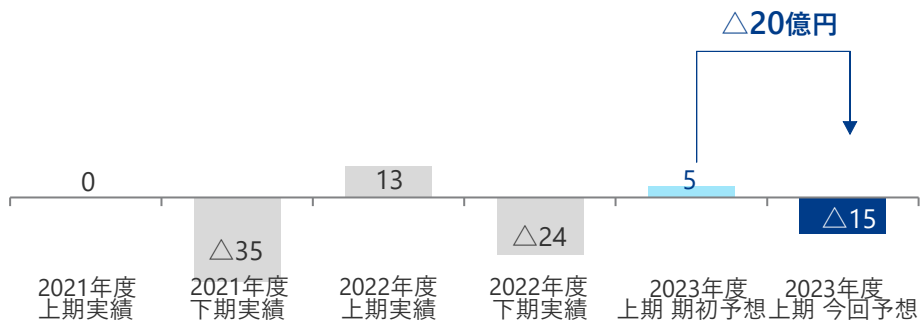
**新型コロナ抗原 迅速診断キット** : インフルエンザの流行により、コロナ・インフルの同時検査キット（コンボキット）の出荷増を見込む  
・5類引下げ後の検査キットの価格維持

**臨床試薬 (炎症マーカー等)** : 期初予想並み

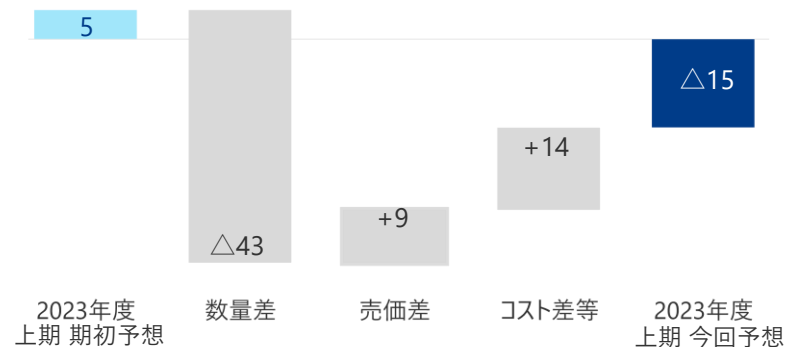
## ■ クロロプレングムの需要低迷が長期化しており、回復の兆しが見えず予想を下回る見通し

単位：億円

### 営業利益 推移



### 営業利益 差異分析(期初予想比)



### 市場見通しと販売動向

(市場)	期初予想	今回予想
クロロプレングム	上期以降、需要が緩やかに回復 下期には22年度上期比90%水準まで回復	需要低迷が長期化しており、回復の兆しが見えない
特殊混和材	国内投資（民間・政府）増や 中国での需要が回復	(変更なし)
セメント	石炭価格：209ドル/t想定 3,000円/tの追加値上げは上期より段階的に寄与	石炭価格：150ドル/t想定 3,000円/tの追加値上げは進捗が遅れるも、7月末までに概ね完了

### 販売動向

需要低迷が長期化し、数量が大幅に下振れる見通し

期初予想並み

石炭価格は下落も、値上げの寄与が遅れる

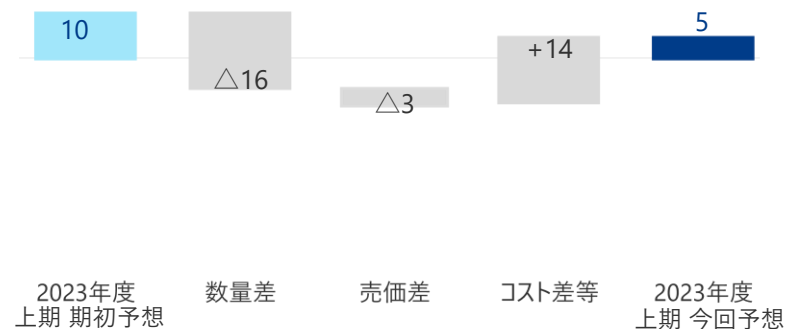
## ■ 需要回復が想定より遅れ、予想を下回る見通し

### 営業利益 推移



### 営業利益 差異分析(期初予想比)

単位：億円



### 市場見通しと販売動向

(市場)	期初予想	今回予想
民生 (TV・PC・家電ほか)	導光板用途の需要は堅調継続 その他の用途についても、2Q以降、需要回復	導光板用途の需要は堅調継続 その他の用途は、需要回復が遅れる
化粧品容器、雑貨など	2Q以降、需要回復	需要回復が遅れる
食品容器	外食と比べ割安感のある中食市場の需要増加	食品価格が更に高騰し、中食市場の需要が減少
Toyokalon	アフリカ・米国市場ともに需要が回復する見通し	アフリカ・米国市場ともに需要回復が遅れる

### 販売動向

MS樹脂	: 期初予想並み
AS・ABS・透明樹脂など	: 民生や化粧品容器、雑貨などの需要が想定を下回る
食包シート・容器	: 下振れの見通し
Toyokalon	: 下振れの見通し

## ■ 1Qは前年並、上期は期初予想から変更なし

## 1Q（前年比）

	投資		減価償却費		研究開発費	
	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度
単位：億円	1Q 実績	1Q 実績	1Q 実績	1Q 実績	1Q 実績	1Q 実績
電子・先端プロダクツ	32	45	19	22	12	12
ライフイノベーション	3	6	10	10	12	14
エラストマー・インフラソリューション	21	16	25	21	8	6
ポリマーソリューション	24	10	11	12	6	6
その他 / 消去差	-	-	1	1	-	-
合計	80	77	66	67	39	38

## 上期（期初予想比）

	投資		減価償却費		研究開発費	
	2023年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度
	上期 期初予想	上期 今回予想	上期 期初予想	上期 今回予想	上期 期初予想	上期 今回予想
電子・先端プロダクツ	100	変更なし	45	変更なし	25	変更なし
ライフイノベーション	30	変更なし	18	変更なし	30	変更なし
エラストマー・インフラソリューション	45	変更なし	45	変更なし	15	変更なし
ポリマーソリューション	25	変更なし	25	変更なし	10	変更なし
その他 / 消去差	-	変更なし	2	変更なし	-	変更なし
合計	200	変更なし	135	変更なし	80	変更なし

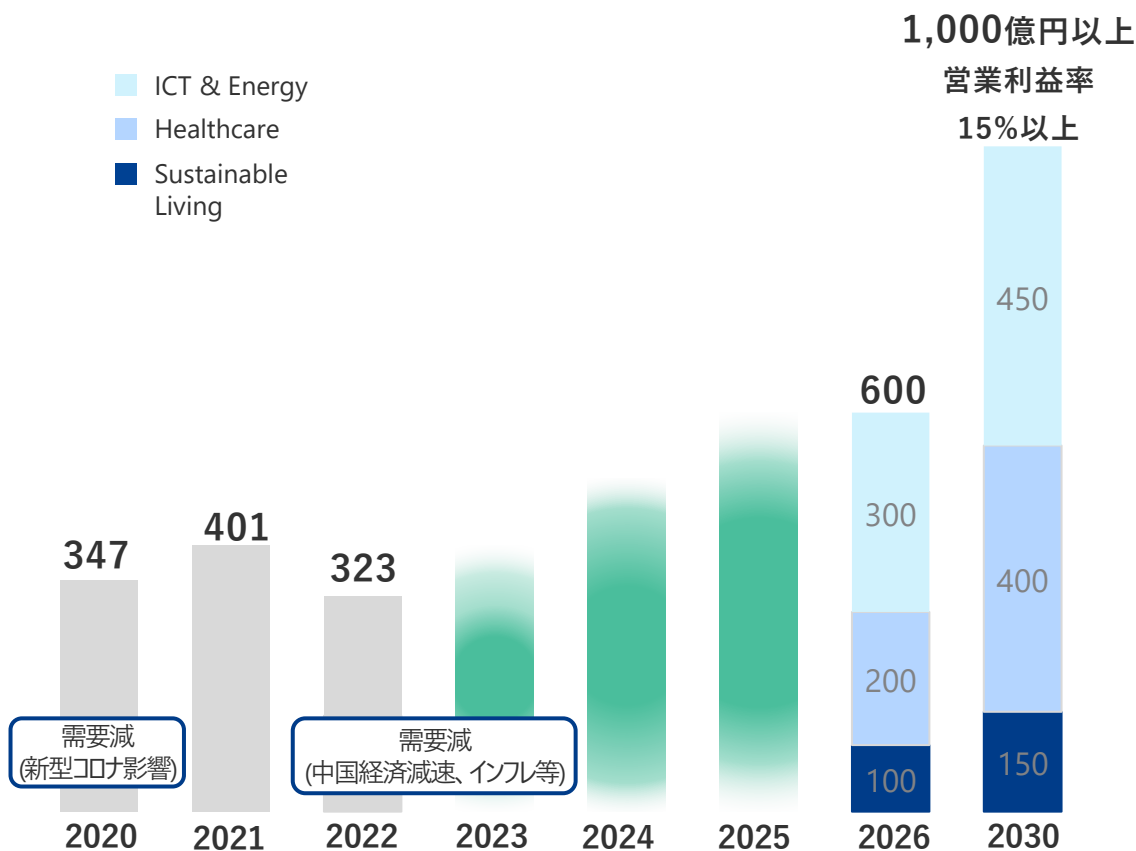
## ■ 配当予想は変更なし

		2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 通期予想
当期純利益	(億円)	250	227	228	260	128	220
1株当たり配当*	(円/株)	120.0	125.0	125.0	145.0	100.0	120.0 (中間60.0 期末60.0)
配当額	(億円)	105	108	108	125	86	104
配当性向		42%	48%	47%	48%	68%	47%
自己株取得	(億円)	21	-	-	-	-	-
総還元額	(億円)	126	108	108	125	86	104
総還元性向		50%	48%	47%	48%	68%	47%
減価償却額	(億円)	229	225	229	239	270	275
設備投資・投融資額	(億円)	328	369	423	356	394	470
有利子負債残高	(億円)	1,121	1,343	1,382	1,370	1,697	1,770
ネットDELシオ		0.40倍	0.42倍	0.42倍	0.40倍	0.50倍	0.51倍
ROIC		7.8%	6.6%	6.8%	7.3%	6.7%	5.6%
ROE		10.3%	9.1%	8.8%	9.4%	4.4%	7.3%

「化学の力で世界をよりよくする  
スペシャリストになる」ために

■ 外部環境に左右され、収支を圧迫している事業の構造改革を実施し、注力分野へ経営資源を集中させることで、2026年度以降の更なる飛躍を目指す

営業利益 推移



【現状】

・2020年度や、2022年度から続く需要減により、1つ星事業が収支を圧迫

【2026年までの対応策】

- ① 戦略投資・研究開発を実施  
→ 注力分野に経営資源を集中し、3つ星事業の更なる拡大へ
- ② 2026年までに1つ星かつ赤字事業の方針決定  
→ 外部環境に左右されにくい事業構造へ

	戦略投資 8年累計 (億円)	研究開発 8年累計
ICT & Energy	800	400
Healthcare	800	700
Sustainable Living	300	200
環境投資	850	
プロセス革新	500	
その他(M&A等)	350	
基礎研究		500



「化学の力で世界をよりよくするスペシャリストになる」ために

今後大きく飛躍が期待できる、誰よりも上手にできる仕事「デンカスペシャル」に経営資源を集中

## デンカスペシャル

今後大きく飛躍が期待できる、  
誰よりも上手にできる仕事

- ①EV向け高機能無機材料
- ②次世代通信向け有機系低誘電材料
- ③がん治療用ウイルスG47Δ製剤と  
ウイルス製剤に特化したCDMOへの展開
- ④水力発電+M to A

# ■ セラミック高温焼成技術、ナノ粒子コントロール技術や不純物制御技術を極めた高機能無機材料により、拡大するEV需要に対応

## デンカスペシャル① EV向け高機能無機材料

売上高 2022年度 **200億円** ▶ 2030年度 **800億円**

### 潜在的市場規模：EV販売台数

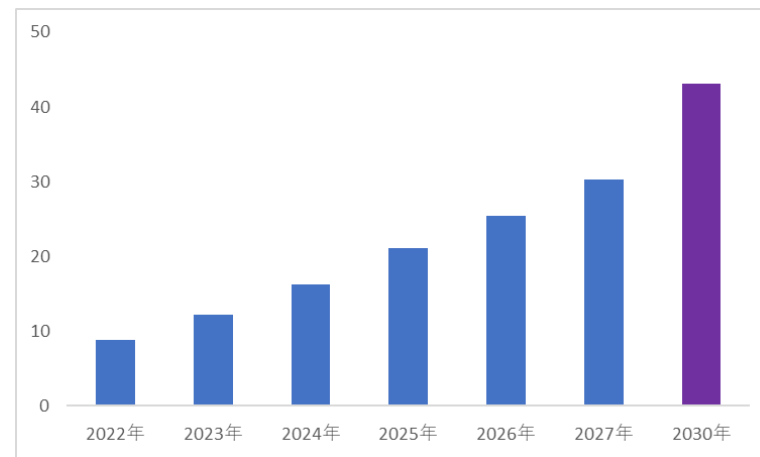
2022年度 **1,000万台** ▶ 2030年度予想 **4,000万台以上**

独自性：セラミック高温焼成技術、ナノ粒子コントロール技術や不純物制御技術を極めた高機能無機材料

車1台当たりの当社売上高

ガソリン車 **200円** ▶ EV車 **2,000円**

(百万台)



EV車の販売台数見込み

主要製品	ガソリン車での主な用途	EV車での主な用途	今後の対応
球状シリカ	半導体封止材	半導体封止材	シンガポールでの能力増強(2024年稼働)
球状アルミナ	-	LiB冷却機構の放熱材、OBC(オンボードチャージャー)	シンガポールでの能力増強(2022年稼働済)
アセチレンブラック	-	LiB正極材の導電助剤	タイでの新規製造拠点(2025年稼働)
窒化珪素	-	インバータ用パワーモジュール向け絶縁基板、 トラクションモータ用ベアリングボール	能力増強(2025年稼働)
セラミックス基板(窒化珪素、窒化アルミ)	-	インバータ用パワーモジュール向け絶縁基板	能力増強(2023年下期稼働)
その他(金属基板など)	ヘッドライト、電動パワステなど	ヘッドライト、電動パワステなど	-

■ 電子材料の分野でいくつものデファクト材料を生み出してきた無機系材料により、市場のニーズを的確に把握し、当社固有の有機系材料製造技術が次世代通信技術に貢献

デンカスペシャル② 次世代通信向け有機系低誘電材料

売上高 2022年度 未上市 ▶ 2030年度 100-150億円

潜在的市場規模：次世代通信（5G、6G）

低誘電樹脂の市場規模  
2030年度 3倍以上（2022年度比）

独自性：電子材料の分野でいくつものデファクト材料を生み出してきた無機系材料により、市場のニーズを的確に把握し、精密成膜、配位重合などの有機系材料の製造技術が高速通信の課題である伝送速度向上（低誘電率）・伝送損失低減（低誘電正接）に貢献

「スネクトン」(LDM:低誘電有機絶縁材料)  
用途：銅張積層板（CCL）、層間絶縁材料向け基材

エチレン-スチレン-ジビニルベンゼンからなる熱硬化型の材料で、軟質系材料の課題である耐熱性や誘電特性を解決。高速通信用リジット基板の基材や層間絶縁材として、採用評価が順調に進む。樹脂材料と無機フィラーどちらも製造している唯一のメーカーである強みを活かし、樹脂・フィラー混合体であるワニスとの独自提案も

LCPフィルム（液晶ポリマーフィルム）  
用途：フレキシブル銅張積層板（FCCL）向け基材

LCPは、フィルム化することが非常に難しい樹脂であるため、安定的に供給できるメーカーが限られているが、当社は電子包材や食包シート事業にて培った有機系材料の成膜技術を応用し、量産性や膜厚制御に優れるTダイ法にてフィルム化する技術を確立。高速通信用のフレキシブル回路の基材として期待。

銅張積層板（CCL）用 IP  
用途：ガラス布基材エポキシ銅張積層板（CCL）プリプレグ用硬化剤

基板のプリプレグ用硬化剤として現在主要材料であるエポキシ樹脂に添加することで、エポキシ樹脂の特徴である加工性、密着性を維持したうえで、ガラス転移温度（Tg）、低誘電特性を改善できる樹脂素材として、ABS樹脂の耐熱付与材として製造・販売しているIPを改良・開発中

■ 治療分野であるG47Δ製剤の拡大とCDMOへの展開に加え、  
既存事業の強化により、更なる成長を目指す

デンカスペシャル③ がん治療用ウイルスG47Δ製剤とウイルス製剤に特化したCDMOへの展開

G47Δ 売上高 2030年度 **700**億円

「悪性神経膠腫」患者の方々に1日も早くG47Δ製剤を届けられるように製造能力を拡充  
(第1段：2025年度末、第2段：2027年下期)

独自性：世界で初めて承認された「悪性神経膠腫(脳腫瘍)」を対象としたウイルス製剤

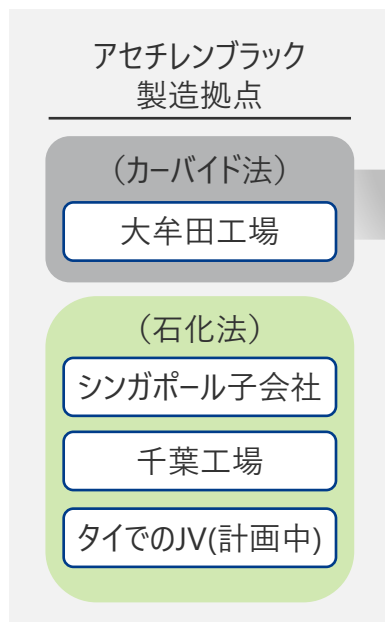
潜在的市場規模 ①：「悪性神経膠腫」の患者数 ※1  
②：他のがん種への適応（臨床研究）  
③：ウイルス製剤に特化したCDMO領域への展開 ※2

※1（悪性神経膠腫の年間新規患者数）  
国内3,000人程度、欧米5万人程度、中国を含めるとより多くの患者が該当

※2 CDMO：Contract Development and Manufacturing Organization、医薬品製造開発受託事業

## ■ M to Aへの製法転換により、アセチレンの低環境負荷かつ大型量産の実現に向けて

### デンカスペシャル④-1 M to A（メタン to アセチレン）の大牟田工場での導入



CO<sub>2</sub>排出量が多いカーバイド法での生産継続

ESGの観点も踏まえ、一度は生産停止を決定するも、  
急激なEV向けLiBの需要拡大に対応するため、生産継続を決定

カーバイド法からの製法転換に向けて

CO<sub>2</sub>排出量削減を目的に、米国のベンチャー企業であるTransform  
Materials社が保有するメタンからアセチレンを製造する新製法の設備を  
導入

本技術の実証とアセチレンの大型量産の実現に向けた技術改良に関する  
共同研究を実施

(参考：2023年5月25日リリース) [https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1135/20230525\\_denka\\_mtoa.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1135/20230525_denka_mtoa.pdf)

- ▶ アセチレンを低環境負荷かつ安定的に確保する製法の確立は、蓄電池の国内サプライチェーン拡充という経産省の経済安全保障政策に合致し、助成金約33億円の認定を受けた
- ▶ M to Aへの製法転換により、アセチレンとともに水素も発生。水素エネルギーの有効利用などにより、更なるCO<sub>2</sub>排出量削減も見込む

## ■ 当社特有の水力発電を持つ青海工場のカーバイドチェーンに、M to Aの新製法を展開することで、低炭素なクロロプレングムの実現と水素エネルギーの活用へ

デンカスペシャル④ -2 水力発電+M to A（メタン to アセチレン）の青海工場への展開

水力発電

+

M to A

= 低炭素クロロプレングム +

水素

独自性：

当社が保有する最大出力  
合計14万kWの水力発電を有効活用

独自性：

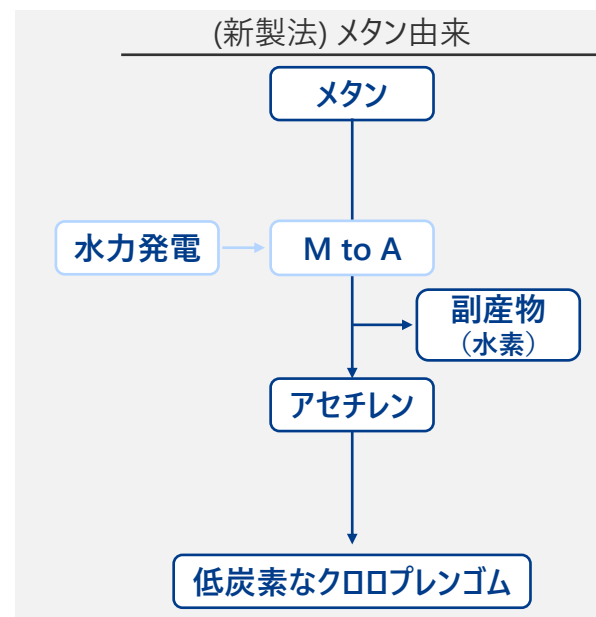
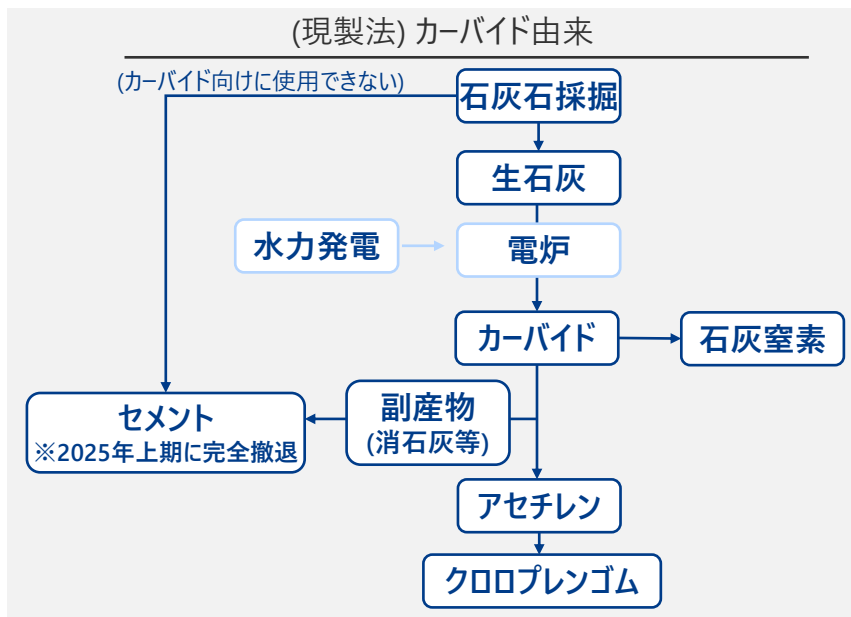
石灰石からアセチレンを製造する  
現製法で培った製造ノウハウを活かし、  
新製法の技術を事業化

低炭素のゴム需要に、  
機能性の高いクロロプレングムが対応

水素の活用検討  
(メタネーション、工場内での使用、  
新たな水素ビジネスの可能性など)

CO<sub>2</sub>削減量

**30万トン**：カーバイド法からの製法転換 及び、副産物である水素の活用を含めた削減量



売上高 単位：億円	2022年度 上期実績	2023年度 上期予想	増減	数量差	売価差
電子・先端プロダクツ	475	400	△ 75	△ 97	+ 22
ライフイノベーション	219	200	△ 19	△ 18	△ 1
エラストマー・インフラソリューション	629	575	△ 54	△ 113	+ 59
ポリマーソリューション	636	650	+ 14	+ 51	△ 37
その他 / 消去差	70	75	+ 5	+ 5	-
合 計	2,029	1,900	△ 129	△ 173	+ 44

営業利益 単位：億円	2022年度 上期実績	2023年度 上期予想	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	96	40	△ 56	△ 44	+ 22	△ 35
ライフイノベーション	65	50	△ 15	△ 8	△ 1	△ 6
エラストマー・インフラソリューション	13	△15	△ 28	△ 50	+ 59	△ 38
ポリマーソリューション	△2	5	+ 7	+ 1	△ 37	+ 43
その他 / 消去差	10	10	△ 0	△ 1	-	+ 1
合 計	183	90	△ 93	△ 102	+ 44	△ 35

売上高 単位：億円	2022年度 実績	2023年度 期初予想	増減	数量差	売価差
電子・先端プロダクツ	935	1,000	+ 65	+ 59	+ 6
ライフノベーション	475	450	△ 25	△ 15	△ 10
エラストマー・インフラソリューション	1,238	1,300	+ 62	+ 11	+ 51
ポリマーソリューション	1,276	1,400	+ 124	+ 193	△ 69
その他 / 消去差	151	150	△ 1	△ 1	-
合 計	4,076	4,300	+ 224	+ 247	△ 22

営業利益 単位：億円	2022年度 実績	2023年度 期初予想	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	180	150	△ 30	+ 36	+ 6	△ 71
ライフノベーション	144	95	△ 49	△ 8	△ 10	△ 30
エラストマー・インフラソリューション	△ 11	25	+ 36	+ 19	+ 51	△ 34
ポリマーソリューション	△ 12	45	+ 57	+ 34	△ 69	+ 92
その他 / 消去差	23	15	△ 8	△ 8	-	-
合 計	323	330	+ 7	+ 72	△ 22	△ 43



売上高 単位：億円	2021年度				2022年度				2023年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q 実績	2Q 予想
電子・先端プロダクツ	210	228	223	240	219	256	223	238	192	208
ライフソリューション	60	193	109	99	64	155	169	88	72	128
エラストマー・インフラソリューション	246	268	261	293	304	325	316	293	280	295
ポリマーソリューション	318	315	295	339	316	320	303	337	298	352
その他 / 消去差	35	40	40	37	41	29	47	34	37	38
合計	867	1,044	928	1,009	944	1,086	1,058	988	878	1,022

営業利益 単位：億円	2021年度				2022年度				2023年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q 実績	2Q 予想
電子・先端プロダクツ	44	48	46	49	41	56	41	42	21	19
ライフソリューション	3	104	12	36	5	60	50	28	9	41
エラストマー・インフラソリューション	1	△0	△12	△23	△2	15	△13	△11	△7	△8
ポリマーソリューション	26	18	19	16	△1	△0	△9	△1	△0	5
その他 / 消去差	4	5	4	2	6	4	9	4	5	5
合計	77	175	70	79	49	134	78	63	28	62

## 業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

世界に誇れる、化学を。

# Denka

本資料に関するお問い合わせ先

デ ン カ 株 式 会 社  
コーポレートコミュニケーション部

---

TEL

03-5290-5511

URL

<https://www.denka.co.jp>